

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	①若者対象コース																	
事業名	医療・生命科学分野の人材流動化に対応する研修プログラム																	
法人名	学校法人滋慶学園																	
学校名	東京医薬専門学校																	
代表者	理事長 浮舟 邦彦	担当者 連絡先	学部長 菅原 大輔 Tel 03-3688-6161															
1. 事業の目的																		
<p>医療・バイオ業界では、元々長期・短期のプロジェクトが展開されることから、研究・開発人材の流動性が高い。加えて、リーマンショックによる世界同時不況と、その後の環境分野に対する公共投資の拡大によって、流動性に加えて複雑性が増している。本事業は、そうした流動性・複雑性が大きい医療・バイオ業界の特性を踏まえ、遺伝子や微生物の取扱い、医薬品の分析など、需要が大きい基礎技術領域に的を絞り、転職や就業能力の向上を図るために必要な基礎的かつ実践的な技術研修プログラムを開発、実施した。</p> <p>研修プログラムを具体的な形にした実証実験講座では、分かりやすさ、役立ち度、興味深さ、満足度（また受講したいか）を四つの主たる指標としてとらえ、受講者アンケート等によって、その効果を検証した。</p>																		
2. 事業の実施に関する項目																		
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）																		
<p>本事業では研修プログラムの開発にあたり、内容の詳細を決めるため、主に社会人を対象にした医療・バイオ分野の研修の実態、Web アンケート調査による市場ニーズの調査を行った。その結果から、スキルアップを志向する技術者の多くに共通した四つの分野（微生物、遺伝子、医薬品、化粧品）の科目を開発することにした。本講座は、実践的な知識・技術の習得を目指すために、すべての授業を実習形式で行った。</p>																		
<p>●開設講座数 : 1 講座          ●総授業時間数 : 84 時間          ●開設期間 : 平成21年11月28日～平成22年2月6日（土曜日ごと）</p>																		
<p>（科目内訳）</p> <table> <tr> <td>&lt;専門分野&gt;</td> <td>微生物</td> <td>07 時間</td> </tr> <tr> <td>&lt;専門分野&gt;</td> <td>遺伝子</td> <td>21 時間</td> </tr> <tr> <td>&lt;専門分野&gt;</td> <td>医薬品</td> <td>28 時間</td> </tr> <tr> <td>&lt;専門分野&gt;</td> <td>化粧品</td> <td>28 時間</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>84 時間</td> </tr> </table>				<専門分野>	微生物	07 時間	<専門分野>	遺伝子	21 時間	<専門分野>	医薬品	28 時間	<専門分野>	化粧品	28 時間	合計		84 時間
<専門分野>	微生物	07 時間																
<専門分野>	遺伝子	21 時間																
<専門分野>	医薬品	28 時間																
<専門分野>	化粧品	28 時間																
合計		84 時間																

## ②受講者の募集方法（手法・期間・効果）

研修プログラムの内容を決定した平成 21 年 10 月から、次のような方法で受講者を募集した。

- ◆ハローワークへの案内
- ◆化粧品工業会等の業界団体への案内
- ◆本校ホームページ内に案内・申込ページを公開
- ◆生命工学技術科の卒業生をメンバーとする SNS に対する案内文書の投稿

各科目とも 20 名を定員としたが、11 月中旬には各科目とも定員を上回る受講希望者が集まり、基本的には先着順に受講者を確定した。しかし、「どうしても受講したい」との声が多数あったので、キャンセル待ちを設けることや、目一杯にキャパシティを増やす工夫をするなど、できるだけ多くの受講者を受け入れるようにした。その結果、微生物、遺伝子、医薬品の各科目については定員を 25 名まで拡大し、化粧品については 35 名まで拡大した。

## ③受講者の状況

受講者延べ 89 名の内訳は下記のとおりである。

- ・性別：男性 49%、女性 51%
- ・年齢層：20 代 51%、30 代 29%、40 代 12%、50 歳 6%、60 歳以上 2%
- ・現職：定職あり 79 名、無職 4 名、無回答・不明 6 名
- ・出身校：本校生命工学技術科 23%、その他 77%
- ・転職経験：あり…54%、なし…46%
- ・転職回数（転職経験ありの場合の内訳）…1 回 48%、2 回 20%、3 回以上 32%

本事業では、就業能力向上事業の趣旨に従い、ハローワークその他への案内により、無職者に対しても受講を勧める案内をしたが、②に示した通り、受講者の 9 割近くが現職者であり、無職と明示した受講者は 4 名にすぎなかった。また、その 4 名も職に就くことに切羽詰まった状況にはなく、全体に渡って、現職者が社内における地位向上や、より有利な機会への転職を目指す雰囲気の中で講座が実施された。

## ④受講者の意識調査等

分かりやすさ、役立ち度、興味深さ、満足度（また受講したいか）を科目ごとに集計すると、次のようになった。

- 微生物
  - ・分かりやすさ  
大変分かりやすい 66%、まあ分かりやすい 29%、その他 5%
  - ・役立ち度  
大変役立った 62%、まあ役立った 24%、普通 14%
  - ・興味深さ  
大変興味深い 71%、まあ興味深い 19%、普通 10%
  - ・満足度（また受講したいか）  
したい 95%、その他 5%
- 遺伝子

- ・ 分かりやすさ  
大変分かりやすい 65%、まあ分かりやすい 27%、普通 2%、やや分かりにくい 3%、その他 3%
- ・ 役立ち度  
大変役立った 56%、まあ役立った 34%、普通 6%、今一つ役立たなかった 2%、その他 2%
- ・ 興味深さ  
大変興味深い 73%、まあ興味深い 25%、普通 2%
- ・ 満足度（また受講したいか）  
したい 96%、したくない 2%、その他 2%
- 医薬品
  - ・ 分かりやすさ  
大変分かりやすい 63%、まあ分かりやすい 33%、やや分かりにくい 2%、その他 2%
  - ・ 役立ち度  
大変役立った 60%、まあ役立った 38%、普通 2%
  - ・ 興味深さ  
大変興味深い 58%、まあ興味深い 36%、普通 6%
  - ・ 満足度（また受講したいか）  
したい 96%、その他 4%
- 化粧品
  - ・ 分かりやすさ  
大変分かりやすい 76%、まあ分かりやすい 20%、普通 1%、やや分かりにくい 2%、その他 1%
  - ・ 役立ち度  
大変役立った 80%、まあ役立った 18%、普通 2%
  - ・ 興味深さ  
大変興味深い 77%、まあ興味深い 21%、普通 1%、その他 1%
  - ・ 満足度（また受講したいか）  
したい 100%

#### ⑤受講後の状況（修了者数・就職率）

本研修においては、受講者のニーズに合わせた科目ごとの受講を認めたため、4科目のすべてにエントリして、修了証の交付条件を満たす出席をした者がいなかった。

また、③受講者の状況で示した通りで、本講座の受講者のうち、無職者は4名にすぎず、かつ、これらの者が講座実施期間の中で就職活動支援を希望していなかったため、就職に関する実績を示すことはできない。

ただ、受講者の中には、現職者とはいえ転職を考えている者も多く含まれており、本校のキャリアセンターに寄せられる情報の提供その他の情報交換の機会を設け、利用を促したが、平成22年3月10日現在、これらの情報交換が契機となった転職の実績はない。

### 3. 事業の評価に関する項目

#### ①当初目的の達成状況

「まあ役立った」も含めた役立ち度は、微生物 86%、遺伝子 90%、医薬品 98%、化粧品 98%と、極めて高い効果を上げることができた。

また、満足度（また受講したいか）は、微生物 95%、遺伝子 96%、医薬品 96%、化粧品 100%と、これ以上ない数値が観察された。

以上から、少なくとも内容面での講座の目標は達成できた。

## ②事業の成果及び改善点

主な成果は下記のとおりである。

1. 社会人を対象にして医薬・バイオ分野の就業能力の基礎を高めるために有効で、かつ、適度な分量の研修プログラムを完成させたこと
2. 講座の実施を通じて、若い社会人教育に関する様々なノウハウを得たこと
3. 講座の実施を通じて、受講者及びその周辺とのネットワークを築けたこと

## ③次年度以降における課題・展開

社会人に対する就業能力向上機会の提供という視点で次のように多面的な展開を考えている。

1. レベルを少し上げた研修機会の新設  
今回の講座に対する受講者の理解度がかなり高いことが分かったので、もう一段階レベルを上げた機会を提供できると考えられる。
2. 分野の拡張  
細胞培養、実験動物取扱などバイオ関連の他の分野への拡張や、環境、海洋など異なる分野への拡張、知的財産権などマネジメント系の取扱いなど、水平的に様々な分野へ拡張することが考えられる。
3. 応用分野への進出  
たとえば、今回実施した科目の中には、エコ領域で応用可能な学習要素が含まれている。そこで、バイオ技術が関連したエコビジネスを取り上げ、
4. ブレンド型ラーニング機会の新設  
今回の受講者のレベルには個人差があり、そこを埋めて行くことが大きな課題として残った。この課題を解決するための一つの手段がeラーニングの導入であり、実習を前に必要な知識はeラーニングで学習しておくという流れが築けると、個人差の解消に役立ち、「予習」が可能な分、効率的に授業を進めることも可能になる。

## ④成果の普及

平成22年2月12日に東部フレンドホールにおいて、成果報告会を開催し、100人以上が参加した。また、150ヵ所以上に報告書の配付を行い、成果の普及に努めた。